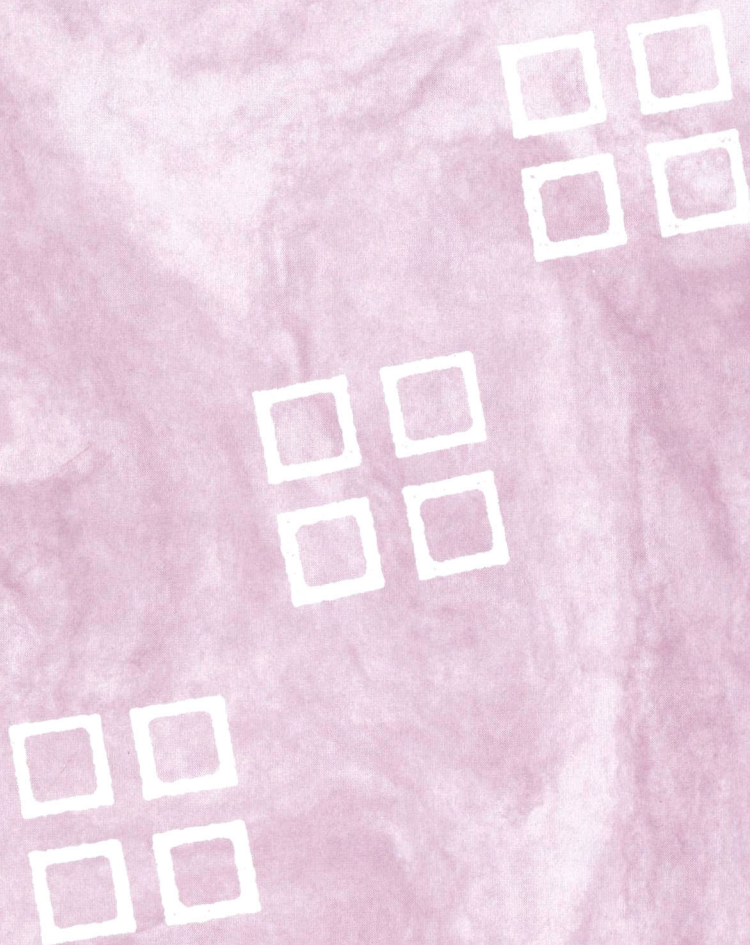


PRO MUSICA NIPPONIA

日本音楽集団

第135回◆定期演奏会



1994年9月8日(木) 午後7時開演
津田ホール

主催・日本音楽集団
〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

プログラム

一、水のバラード (委嘱初演)

宗像 和 作曲

[笛] 藤崎 重康 [尺 八] 米澤 浩
[三味線] 野口美恵子 [琵琶] 田原 順子
[二十絃] 山田 明美 [十七絃] 城ヶ崎美保
[打楽器] 臼杵美智代

あの8月6日と9日、広島と長崎であの惨状が起こされ、「水・水……」と求めつつ亡くなっていった人々に飲まれた水、飲まれなかった水。そこにいた水たちはすべてあの状況を目撃している。

彼らは今日でもなお地球のどこか、空、山、町、川、海で人類といっしょにいて人類をみつめている。その水たちの心を美しく美しく歌おうと民族楽器による「水シリーズ」の作曲を始めた。1982年。——そしてチェルノブイリ。

あの事故のとき私はアムステルダムにいて、小さなホテルからゴッホの美術館に通っていた。事故のこと全く知らずに帰国したら日本で大騒ぎになっていた。

事故の後遺症は深く、長い。もう8年にもなるのに、ロシアの被爆児らが治療のため日本にきたテレビをみた。可愛い無邪気な子供たち。

水は見ている。水たちは事故の実体も見ている。水たちの心に添いたくて七人の奏者に託してこの物語りを書いた。(作曲者)

二、十七絃のための「ノリ」

朴 範薫 作曲

[十七絃] 宮越 圭子 [杖 鼓] 李 周熙 (客演)

「ノリ」という曲目は「遊び」という意味で、サムルノリ(四つの打楽器の遊び)、マダムノリ(庭で遊ぶ)という例がありますが、この曲の場合は、小鉦、大鉦、太鼓の韓国打楽器と日本の十七絃が変拍子のリズムで一緒に楽しく遊ぶという意味で使っています。十七絃のベース楽器という特徴を考えて、メロディーは単純ですが、リズムに重点を置いています。そのリズムは、韓国の京畿地方の巫俗音楽ムソックで使われる独特なリズムを参考にし、最初は「長短」という古典のリズムで始まり、途中から自由に変わる展開をしています。(1993年、宮越圭子第2回十七絃リサイタルで委嘱・初演)

～ 休 憩 ～

三、夷曲「西綾楽」(ひなぶり・さいようらく)

芝 祐靖 作曲

[笙] 西原 貴子
[ひちりき] 西原 祐二
[笛] I 西川 浩平 II 竹井 誠
[尺 八] I 藤崎 重康 II 加藤 秀和 III 添川 浩史
[胡 弓] 畦地 慶司
[琵琶] 田原 順子
[箏] I 熊沢榮利子 II 桜井 智永
[十七絃] I 久東 寿子 II 大泉 一美
[打楽器] 前田 文男・望月太喜之丞・杉浦 邦雄
[指揮] 田村 拓男

夷曲^{ひなぶり}は外国風の音楽を示し、「西綾楽^{さいりょうらく}」は西方の綾羅の音楽という意味を持ち、敦煌千仏壁画の「胡旋女舞図」「飛天奏楽図」のイメージと、第十七窟より発見された琵琶譜（パリ国立図書館蔵）の中の旋律をテーマとしている。曲は、砂漠の中の千仏洞を表した静かな序奏にはじまり、敦煌の風に聴く唐代の楽の音へと続く。そして洞内を進むと西域風の壁画より、羊飼いの笛^{よらみづ}が聞こえ、次第に合奏となり、薄絹をなびかせた胡旋女の踊りとなる。舞曲「蘇羅密」が終わると、飛天の奏楽にうつり琵琶と笙が静かに奏し、次第に合奏となる。次に箏、十七絃によって敦煌琵琶譜「傾盃楽」の終曲「急曲子」の旋律が奏され、合奏となるが、これは唐代舞曲の再興を試みたものである。（1985年、日本音楽集団第91回定期演奏会で委嘱・初演）

四、樹を聴く（委嘱初演）

新実 徳英 作曲

[笛] I 西川 浩平 II 竹井 誠 III 西原 貴子
[尺八] I 三橋 貴風 II 藤崎 重康 III 米澤 浩
[二十絃] I 吉村 七重 II 熊沢栄利子 III 山田 明美
[十七絃] I 宮越 圭子 II 大畠菜穂子
[打楽器] 前田 文男・臼杵美智代・立枝 恵子・杉浦 邦雄
[指揮] 新実 徳英

日本音楽集団委嘱による第一作が〈風を聴く〉、そして第二作がこの〈樹を聴く〉である。

もの言わぬ樹々の「声」に——それは風の歌でもあるのだが——、そして樹々のまわりに、その根っこに生まれ育つ微小な生命群を始めとする、この地上の様々な生命群の発する「声」に耳をすましたいと願ってこの曲を発想した。

樹の形——自然の造型——の美しさから受ける感銘もこのタイトルに関わっている。シンメトリーなどでは決してなく、幹や枝が大いにゆがんでいることだって珍しくはない。しかしその絶妙なバランス、まわりとの調和。こういった自然の造型の妙から私は今、何かを学ぼうとしている。

編成は第一作とほぼ同じで、篠笛、尺八、箏の各群による。打楽器に洋楽系のもの、アジア系のもの、凝音打楽器などを加えたのがやゝ異なる点である。いつの日にか日本の楽器に東南アジア、インド、西アジア等の多種多様な楽器を加えた壮大な混沌と秩序を作ってみたく思っているのだが、この曲はその目標に向かってのささやかな第一歩なのである。（作曲者）

客演プロフィール

リ チュウヒ
李 周熙（杖鼓）

1964年ソウル生まれ。ソウル中央大学音楽学部、同大学院卒業。韓国舞踊を専門とするほか、伽倻琴、打楽器を習得、現在、朴範薫氏率いるソウル中央國楽管絃樂團の主席打楽器奏者として活躍している。個人としての活動も盛んである。1993年4月よりお茶の水女子大学で学んでいる。

日本音楽集団第21次海外公演 (アメリカ)

PMNニュースでお知らせしましたように、ニューヨークフィル定期演奏会出演を含む第21次海外公演(アメリカ)が10月4日から21日まで行われます。日程と参加メンバーは次の通りです。

【日程】

10/4(火) 出発

5(水) リハーサル

6(木)~8(土) ニューヨークフィル定期演奏会

Avery Fisher Hall

9(日) 単独公演 Miller Theater (コロンビア大学主催)

12(水)~14(金) フィラデルフィア公演

(Deleware Valley Arts Consort 主催)

16(日) セント・ポール公演

St. Paul Sunday Morning Radio program

(Minnesota Public Radio)

17(月) アイオワ・シティ公演 (アイオワ大学主催)

19(水) バロ・アルト公演 (スタンフォード大学主催)

【参加メンバー】

笛：西川浩平

尺八：坂田誠山、米澤 浩、
添川浩史、石田忠史

胡弓：畦地慶司

三味線：簗田司郎、田中悠美子

琵琶：田原順子

二十絃：木村玲子、山田明美

十七絃：宮越圭子、城ヶ崎美保

打楽器：高橋明邦、臼杵美智代、
杉浦邦雄

指揮：田村拓男、稲田 康

ソプラノ：宇佐美瑠璃

音楽監督：三木 稔

スタッフ：(株)アイエムエス

助成=国際交流基金・(財)花王芸術文化財団・(財)ロームミュージックファンデーション

長沢勝俊作品集待望のCD化

10月末発売予定・4枚シリーズ同時発売

組曲「人形風土記」

子供のための組曲

☆新録音☆

I 組曲「人形風土記」/子供のための組曲/冬の一

II 大津絵幻想/詩曲/箏四重奏曲/萌春/二つの舞曲

III まゆだまのうた/三味線協奏曲/颯踏/虹の輪

IV 春三題/尺八協奏曲/錦木によせて/飛驒によせる三つのバラード

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437